

中期経営計画(2017～2020)の見直し ～再生に向けたビジョン～

説明資料

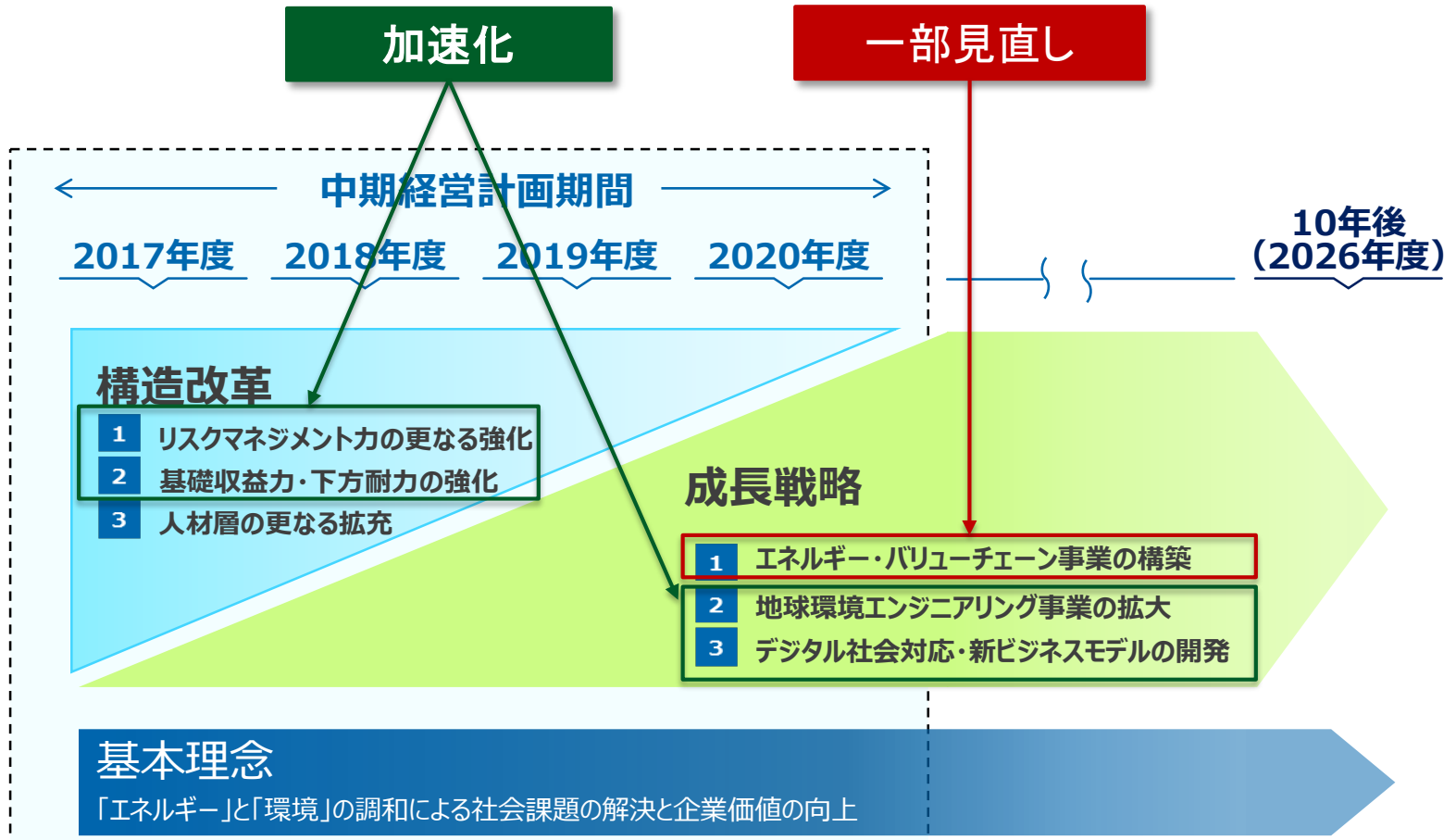
2018年11月9日

千代田化工建設株式会社

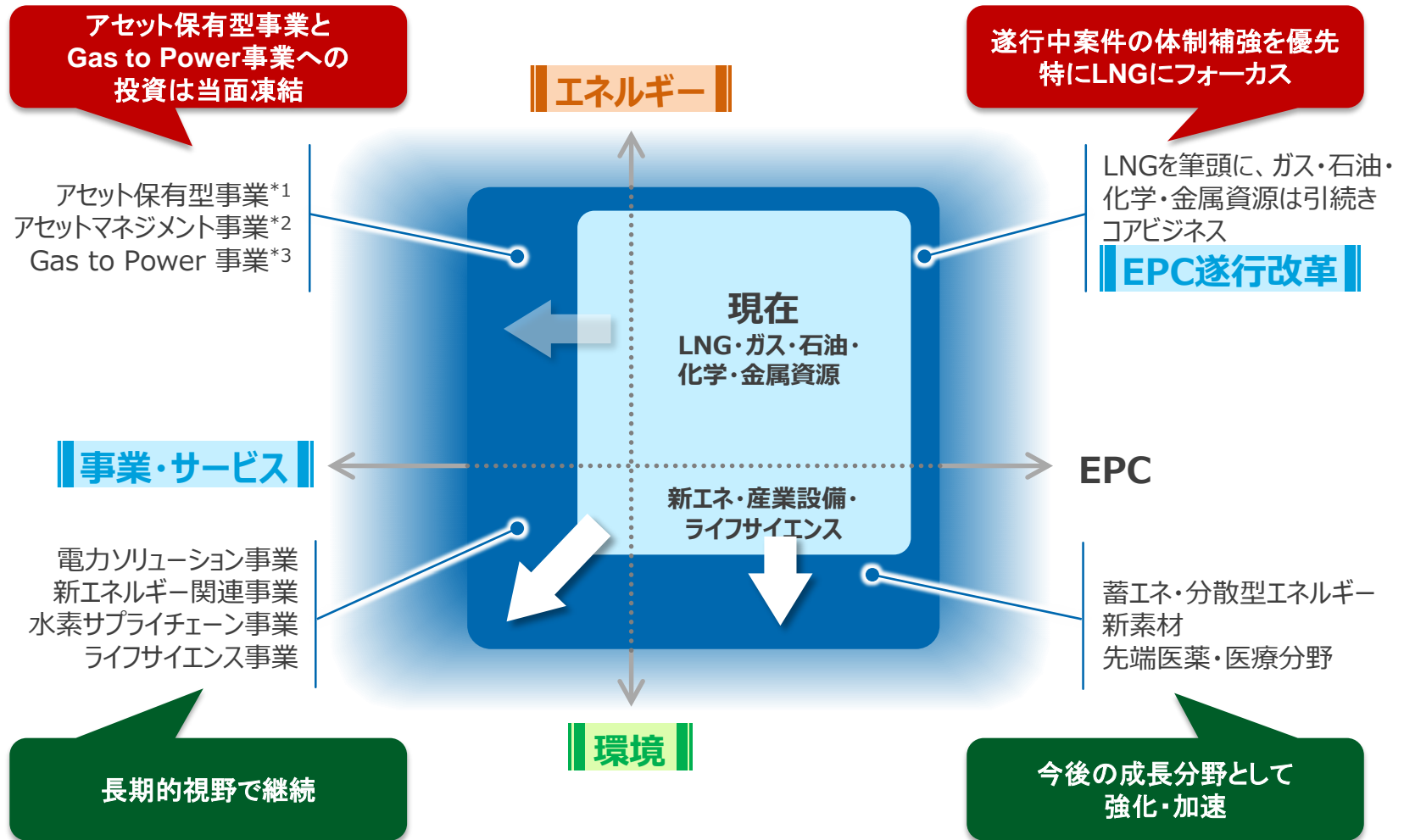
見直しの骨子

1. 現行の中期経営計画の確認 2
2. キャメロンLNGを含む遂行中案件の完遂 5
3. リスクマネジメント力の更なる強化とオーバーストレッチしない受注 7
4. 抜本的なコスト削減 11
5. 財務体質の強化 13

1. 現行の中期経営計画の確認(1/2)



1. 現行の中期経営計画の確認(2/2)



*1 アセット保有型事業: Floater (浮体式設備)・陸上プラント等のアセット保有・運営を通じて収益を得る事業

*2 アセットマネジメント事業: アセット保有者への各種技術サービスの提供を通じて収益を得る事業

*3 Gas to Power 事業: LNG供給・LNG受入れ基地・発電が一体となった事業

見直しの骨子

1. 現行の中期経営計画の確認 2
2. **キャメロンLNGを含む遂行中案件の完遂 5**
3. リスクマネジメント力の更なる強化とオーバーストレッチしない受注 7
4. 抜本的なコスト削減 11
5. 財務体質の強化 13

2. キャメロンLNGを含む遂行中案件の完遂

キャメロンLNG

- 「キャメロン対策タスク」を設置
 - 社長をリーダーとして2018年9月1日付で設置
 - 本社サイド・現場サイドの責任者に、副社長級を配置
- 計画どおりの完遂を確実にする対策を実施
 - 作業員定着率を上げ労働生産性を高める為の施策を実行
 - 当社人材を追加投入し、顧客対応を更に推進
 - パフォーマンスの良い代替サブコントラクターの起用

その他 主要案件

- 外部専門家を起用し、主要案件の現況を再確認
 - 主要案件を第三者目線で総点検
- 遂行中案件の損益確保・改善にリソースを優先配分
 - 新規受注戦略を見直し、遂行中案件向けリソースを確保(P9参照)
 - これにより遂行中案件トータルでのキャッシュポジティブを確保

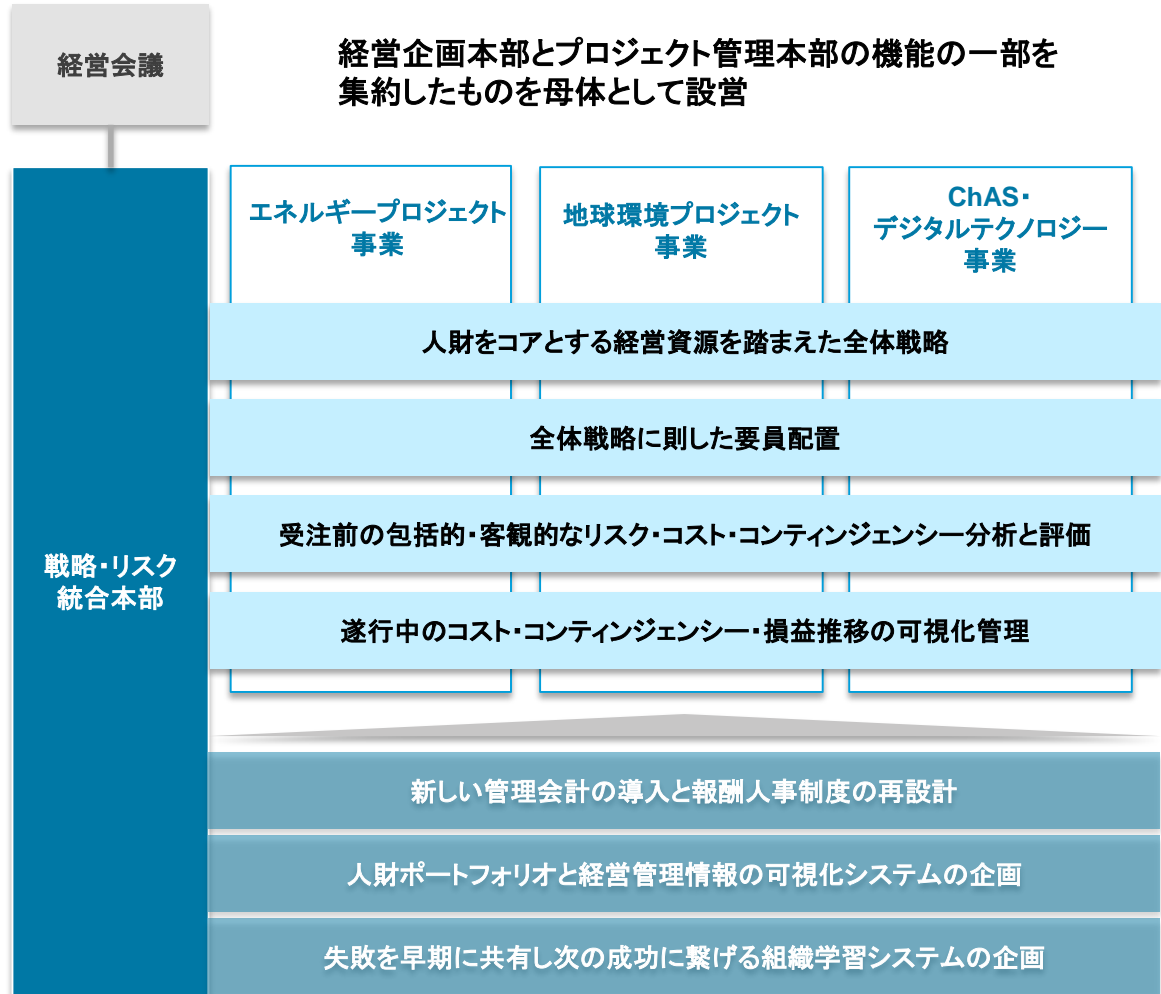
見直しの骨子

1. 現行の中期経営計画の確認 2
2. キャメロンLNGを含む遂行中案件の完遂 5
3. リスクマネジメント力の更なる強化とオーバーストレッチしない受注 7
4. 抜本的なコスト削減 11
5. 財務体質の強化 13

3. 戦略・リスク統合本部を新設(1/2)

戦略・リスク統合本部 設立準備室を設営

- 2018年11月中に発足、2019年3月末迄に30名体制で始動
- 専任者に加え、営業・プロジェクト・コーポレートの執行役員クラスが参画
- 経営会議の下部組織として位置づけ、ガバナンスを効かせる
- 幹部に外部人材も登用



戦略・リスク統合本部の機能・役割(暫定)

経営企画本部とプロジェクト管理本部の機能の一部を集約したものを母体として設営

3. 戦略・リスク統合本部を新設(2/2)

戦略・リスク統合本部の役割(抜粋)

受注段階での リスク管理

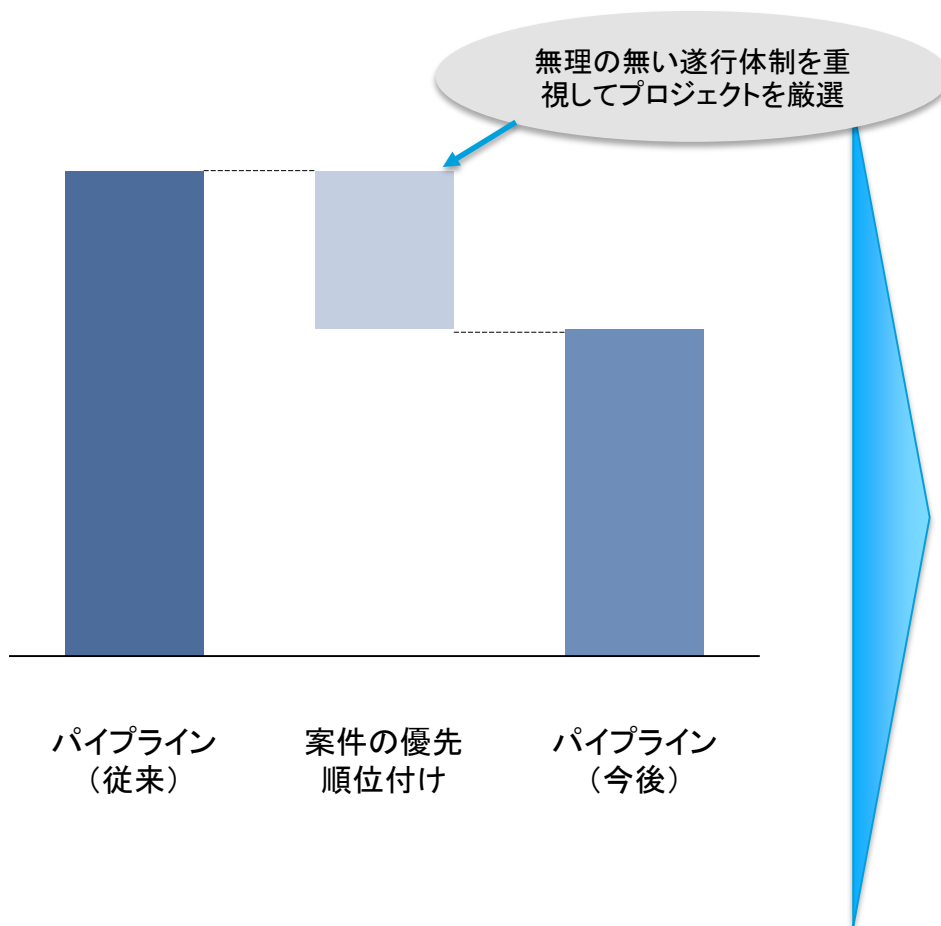
- プロジェクト・キー・パーソン(PKP)数の制約を踏まえた受注規律の厳格管理
- 中長期的な計画に基づくPKP最適配分
- リスク評価について、第三者評価も加えた課題の整理、蓄積した過去の教訓を踏まえた、適切なコンティンジェンシープランの策定
- 受注案件の大型化や複雑化に対応した、コストの積算方法と前提条件の妥当性の検証、また、網羅的なリスク分析体系・手法の拡充

受注後における リスク管理

- 現地で感知された様々なリスクの予兆を、トップマネジメントにタイムリーに共有する仕組みの再構築
 - コストやコンティンジェンシーの推移モニタリングやトレンド分析、
 - 感知されたリスクに対する早期打ち手の策定と実行 等
- 大型EPC案件にて遂行中に発生する問題について、これまでに蓄積した根本原因分析に基づくチェックリストや解決ノウハウの更なる有効活用
- 更に、受注時に認識したリスクの定期的・継続的フォロー、及び第三者による評価・監査の仕組みの導入・運用

3. 受注管理の徹底

LNGを中心とした海外大型案件の
パイプライン内訳(2022年度分までの累計)



【優先順位付けの基準】

- 顧客のプロジェクト遂行上の要求事項が明確
- プロジェクト遂行上のリスク
- パートナーを含めた遂行体制
- 十分な人的リソースの確保
- 利益重視

見直しの骨子

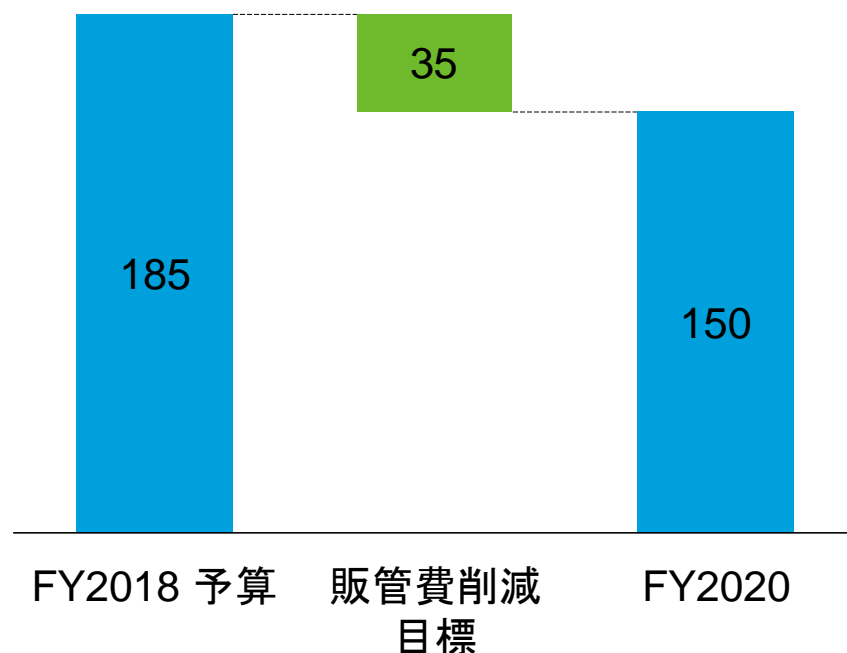
1. 現行の中期経営計画の確認 2
2. キャメロンLNGを含む遂行中案件の完遂 5
3. リスクマネジメント力の更なる強化とオーバーストレッチしない受注 7
4. 抜本的なコスト削減 11
5. 財務体質の強化 13

4. 販管費の約20%を削減

販管費削減に向けた具体的な取り組み

単位: 億円

販管費の削減



- 本社経費の抜本的な削減
 - 国内グループ会社の更なる最適化
 - 海外拠点のゼロベースでの見直し
 - IT活用による効率化
 - 連結固定費全体では約100億円の削減
- 一方、
- 再生のコアである人財の堅持
 - 未来に向けた研究開発は維持

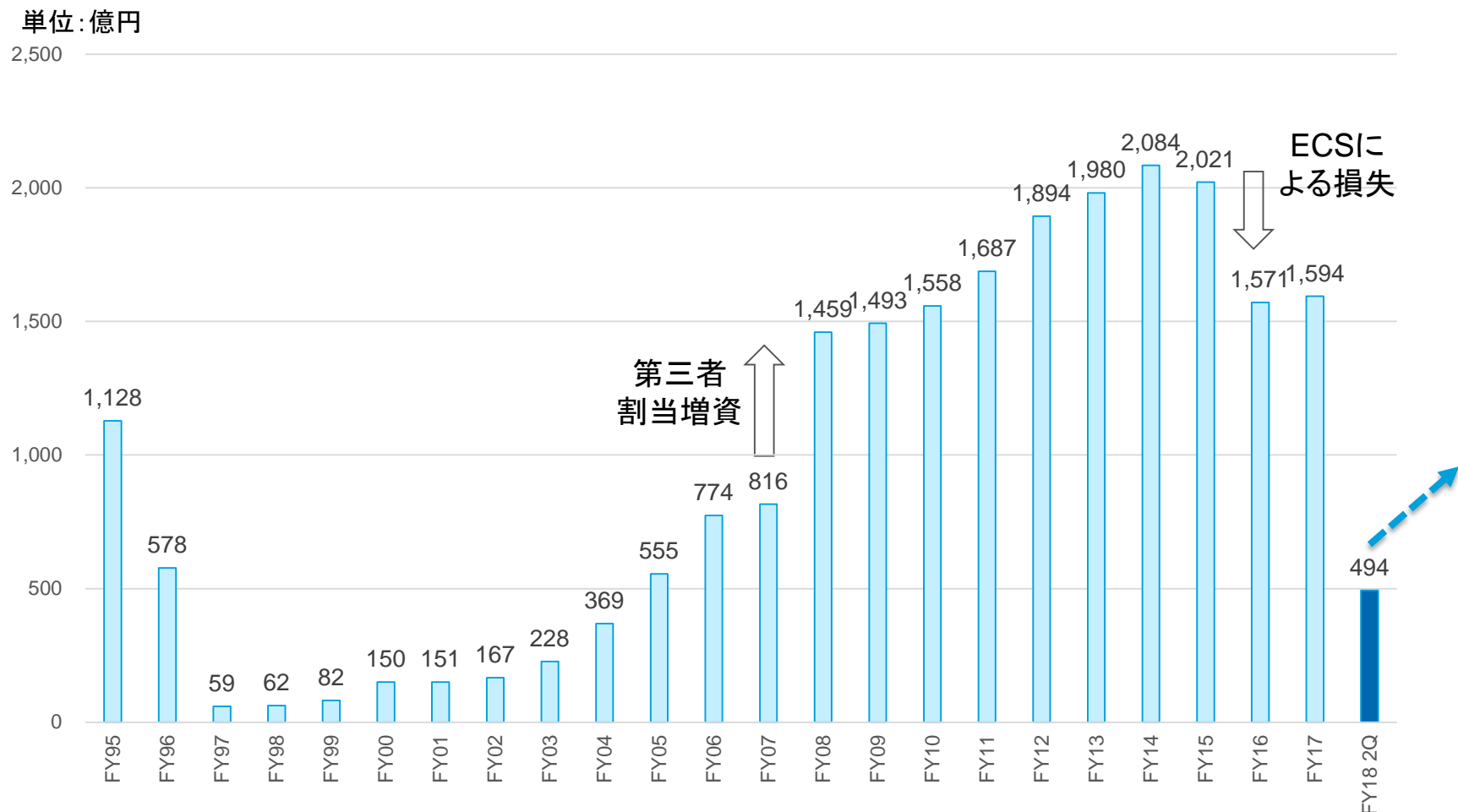
注: 連結固定費は約600億円。うち販管費は約185億円(2018年度見込み)

見直しの骨子

1. 現行の中期経営計画の確認 2
2. キャメロンLNGを含む遂行中案件の完遂 5
3. リスクマネジメント力の更なる強化とオーバーストレッチしない受注 7
4. 抜本的なコスト削減 11
5. 財務体質の強化 13

5. 純資産の推移

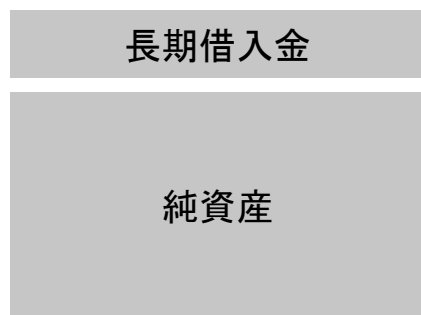
純資産の推移



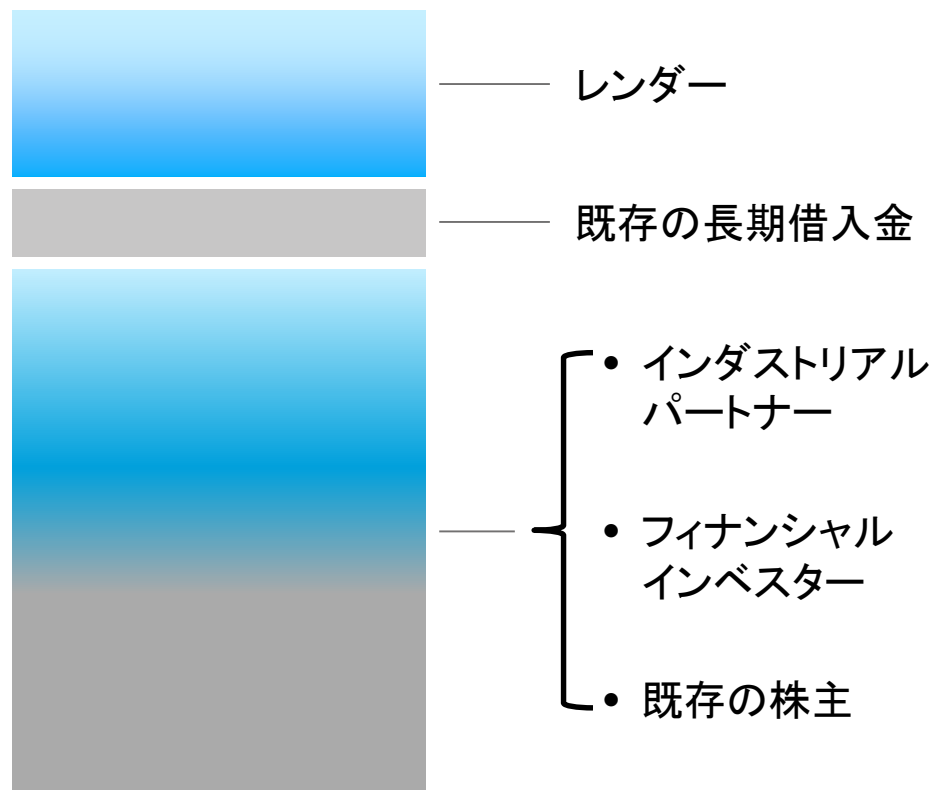
注: ECS = Emas Chiyoda Subsea

5. 財務体質の強化

現在の財務体質
(2018年9月)



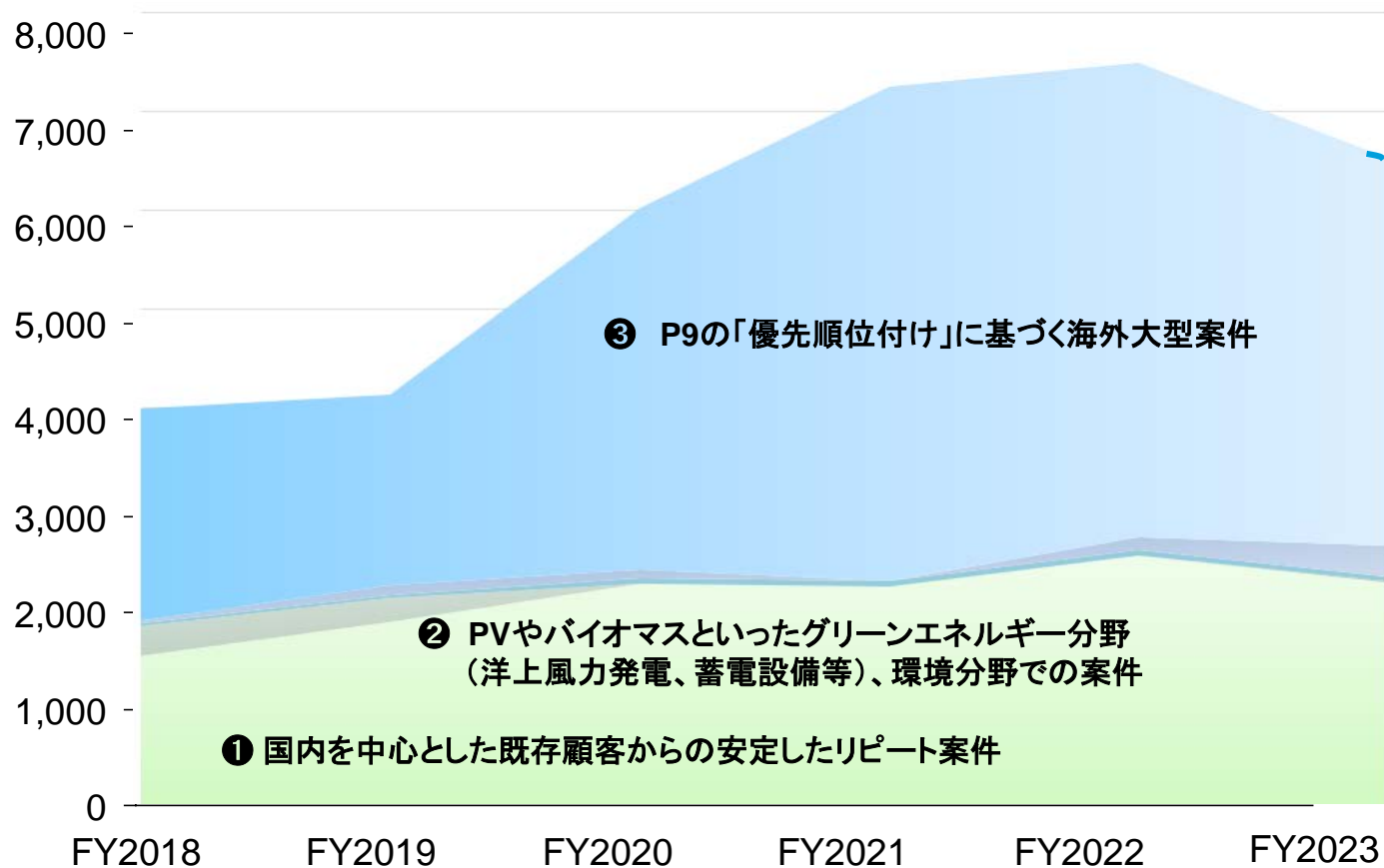
財務体質強化後の姿
(2019年3月目標)



5. 売上計画

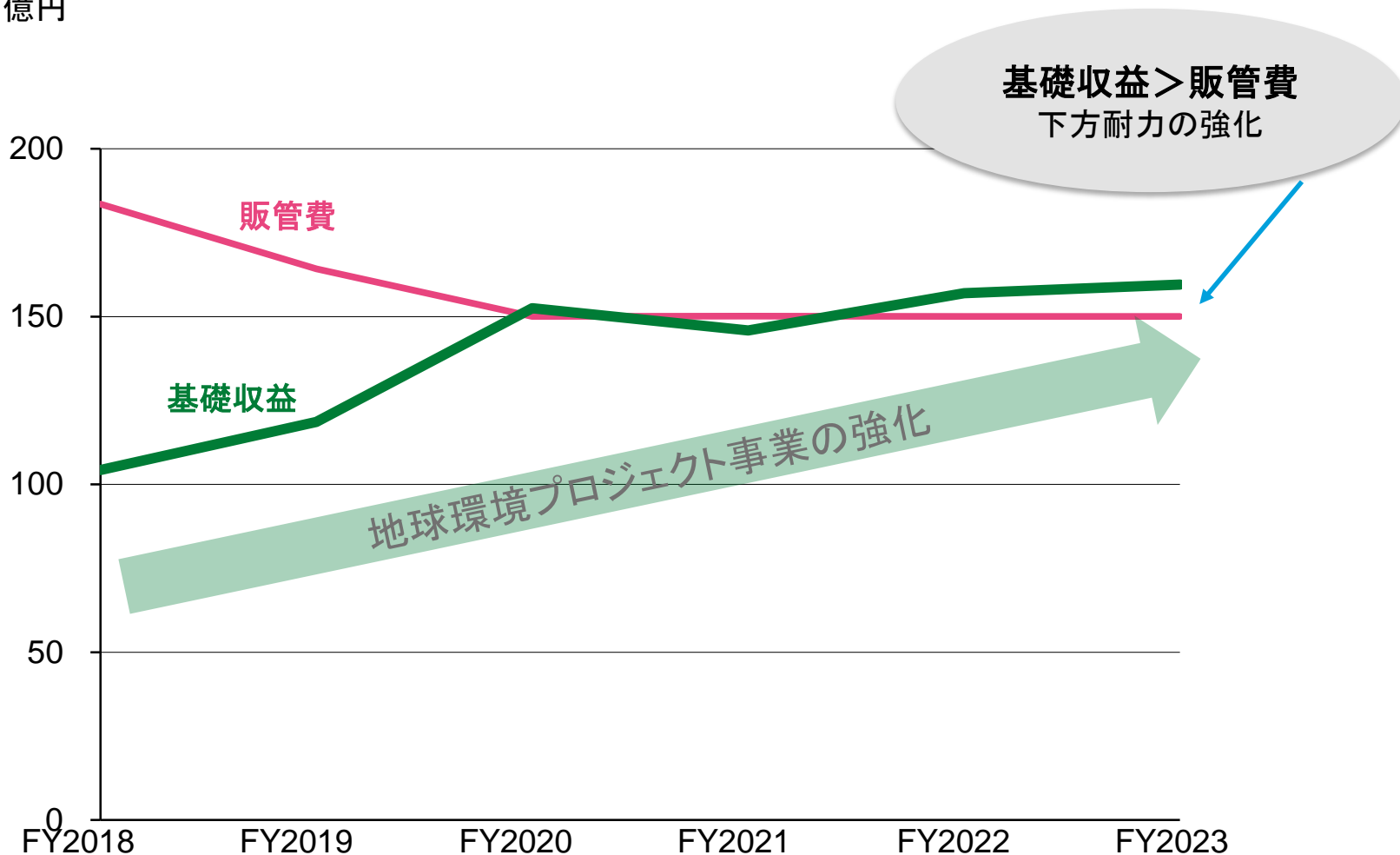
安定的な収益が見込まれる分野・顧客に注力

単位：億円



5. 基礎収益と販管費とのバランス化

単位：億円

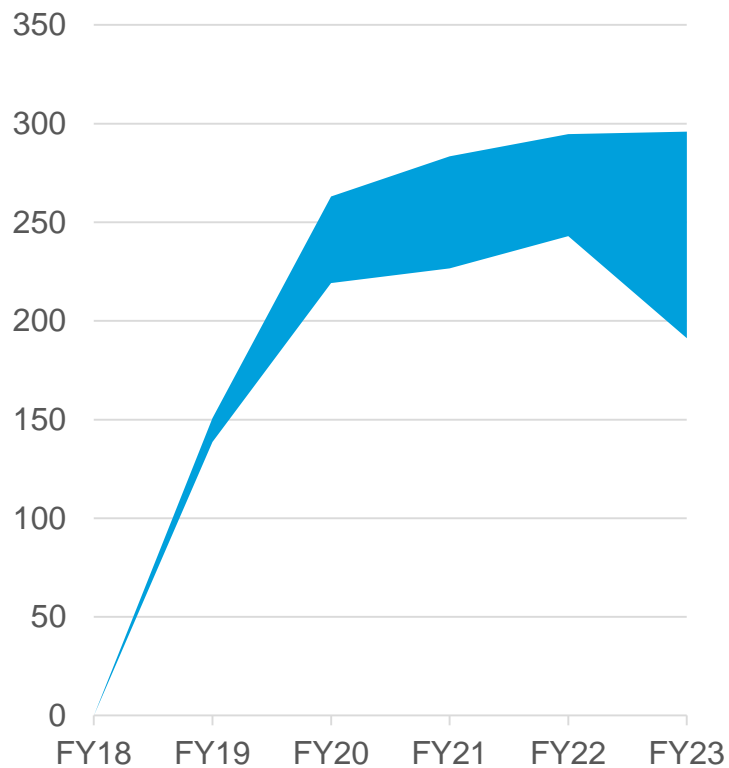


注：基礎収益：地球環境プロジェクト事業から生み出される安定収益

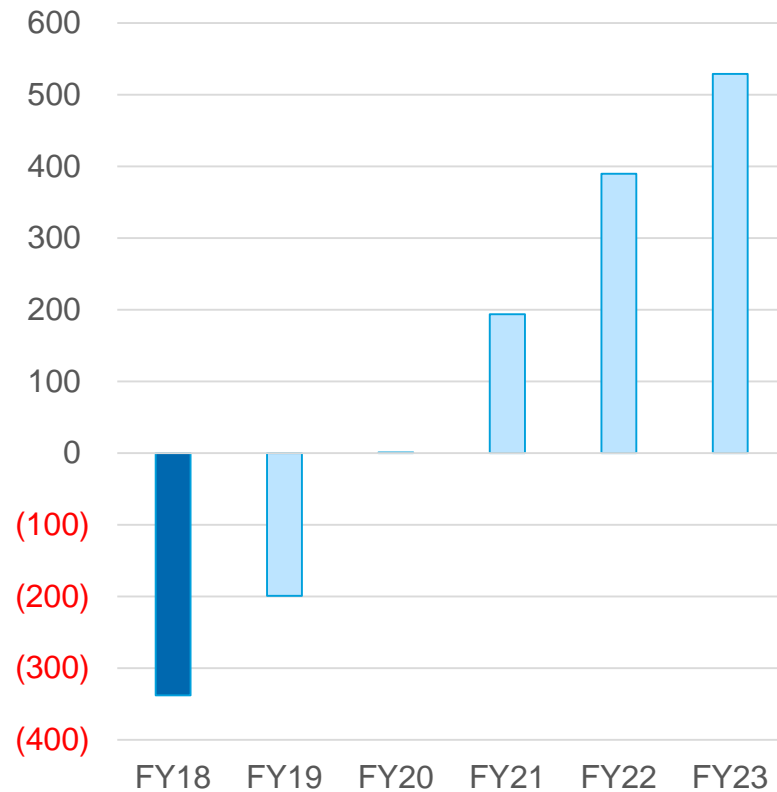
5. 純利益の定量目標

単位：億円

純利益



利益剰余金



この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】

千代田化工建設株式会社

IR・広報・CSR 部

Tel. 045-225-7734

<https://www.chiyodacorp.com/jp/>



© Chiyoda Corporation 2018, All Rights Reserved.

